

第1回大阪市都市計画審議会専門部会 会議要旨

1 日時 平成24年11月6日(火) 午前10時30分から午前11時34分

2 場所 大阪市役所本庁舎 地下1階 第10会議室

3 出席者

[委員]

橋爪部会長、嘉名委員、塚口委員、長町委員、加藤委員、櫻内委員、
佐藤委員

[エグゼクティブアドバイザー]

喜多大阪芸術大学芸術学部デザイン科長

[オブザーバー]

川上大阪府都市整備部総合計画課長、山下大都市まちづくり推進室長

[本市出席者]

佐藤計画調整局長、高橋計画部長、角田計画調整局開発調整部長、
寺本都市計画課長、山田計画調整局デザイン施策担当課長

4 議案等

- ・御堂筋の活性化に関する検討調査

5 議事要旨

- ・事務局より資料に基づき議題を説明し、喜多氏より海外事例や現在の御堂筋について紹介をいただいたうえで、内容について各委員からの意見をいただいた。
- ・次回専門部会では、景観シュミレーションや海外事例等を検討しながら、パブリックコメントに向け、中間とりまとめをおこなうこととした。
- ・次回部会は11月28日(水)9時から開催することとなった。

(主な意見)

- ・御堂筋の24時間化には賛成。24時間化にするだけでも活性化すると思う。
- ・他都市は多機能化しており、オフィスだけでは成立しなくなってきている。
- ・ゾーン化については、現在のエリア特性を踏まえると案のとおりでよいと考える。
- ・足元は商業系のにぎわいを入れ、上はエリアごとで考えるほうがよい。
- ・ポイントは居住をどうするかだが、沿道に(分譲のような)居住機能を入れることには疑問。滞在型は良いが分譲にはあまり賛成できない。船場での都心居住が進むように考えてほしい。
- ・高さの制限を緩和する際には景観が論点になる。景観の検討は慎重に行うべき。ビルに求められる多機能化による高さとのバランスを考えるべき。
- ・エリアマネジメントを実現させてほしい。地域が主体的に活動できるような環境づくりをお願いしたい。

- ・人中心で考えるのは良いが、街路側からの視点も考えるべき。沿道と道路を切り分けて考えるのは難しい。沿道一皮だけで考えるか後背地も含めて考えるかで議論が変わる。
- ・居住は船場は受け入れるが、沿道の居住機能を上げるのは、ホテルなどは良いが、ここでないといけない必然性がわからない。
- ・沿道の多機能化による交通発生についてきちんと考えるべきである。
- ・御堂筋の50mのスカイラインはなじんできている。街路を歩いている人が見てわかる高さ越えになる。高さについては、今までの施策との整合性も含め慎重に議論したうえで結論を出す必要がある。
- ・シンガポールは地区ごとにマスタープランを作って計画的に開発されており、学ぶところは多い。
- ・ポイントは住宅に対する規制をどうするのか。50mの景観は守りたい。景観を維持しつつ、人がいかに住めるのかに興味がある。
- ・中之島を見本に人を呼ぶ方法を考えるのもよい。
- ・御堂筋を南向き一方通行にしたのは、当時としては大変な成果だったと思うが、今の時代はどうか。道路空間はそのままにしておいて、ヒューマンな視点でというのは少し厳しい。通過交通を前提にした議論からの脱却が必要ではないか。
- ・現在、世界のメインストリートで起こっていることは、歩行者空間化、ポケットスペースといった滞留空間化、街園化（みどり化）、水環境、LRT、情報化、沿道の吹き抜けのあるシンボル建築の存在である。
- ・住宅については、大阪では高額賃貸が成立しにくいのが実情。
- ・高さについては、75mくらいまではよいのではないか。
- ・「グランドデザイン大阪」との関係性及び推進体制との整合性や役割分担を整理してほしい。
- ・論点では、沿道に焦点を当てているが、それ以外の面的広がりをどうするのか。
- ・インセンティブを与える必要性はあるが、インセンティブのための義務をつくるのは避けてほしい。
- ・エリアマネジメントを展開してほしい。
- ・御堂筋界隈のビルは競争力が低下している。一方で古いビルが多く、建て替えが必要だが、採算が合わないと建て替えれないのも実情。東京には耐震強化への補助があるが、大阪ではそのような制度がない。
- ・部会の主役は「御堂筋」。本当は道路を主にしないと話が進まないのではないか。
- ・建物については、高機能化の為には階高は50mではたらない。競争面のみならず、高機能化の為にも高さ緩和は大賛成。
- ・御堂筋の将来像を描きながら、船場も見つつ、最後は沿道をどうするかに収束させたい。
- ・梅田、中之島と違うまちにするように考えないといけない。